選択～凛華の心～

凛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

選択〜凜華の心〜

【Nコード】

N5046J

【作者名】

凜

【あらすじ】

ある意味、モテモテの凜華は、日々、告白され続けている。

告白されても、いつも、『友達』で、終わってしまう凜華。

そこに、ある男子が現れる。

プロローグ

「ねえ、凜華。この5人の中で、恋人にするとしたら、誰が良い？」
少し暗めの教室。窓からは、真っ赤な夕日が見える。部活終了後、私は、男子の群れに教室に連れ込まれてしまった。

私の前に並ぶ、男子5人は、皆、顔が真っ赤になっていた。

左から、背の高くて、イケメンの男子。その横は、普通の身長に少しポツチャリしたかわいい系男子。背の低い小学生のような、童顔の男子。身長は、まあまあ高くて、顔もまあまあで普通の男子。そして、一番右の背が高く、チャラいけど、頭良さそうな男子。

きっと、他のそこら辺にいる女子なら、ほとんどの人が、嬉しいという気持ちと迷う気持ちが一気に迫ってくるだろう。けど、私は、もう返事は決まっている。嬉しいとも、何とも思わない。今まで、何度かこういう状態になった事がある。

「私は、誰も好きにならない。アナタたちも分かってるはず」

私は、そつと床を見つめながら呟いた。

静かな空気が流れていく。私は、教室を出ようと足を踏み出そうとすると、1人の男子が、私の手を掴む。

「なぜ、凜華は、誰も好きにならないんだ？」

真っ直ぐな目で、私を見つめる。私は、皆の視線に気づき、後4人の男子を睨んだ。すると、皆、視線を逸らす。私は、溜息をつき、「嫌いな。恋愛とか。面倒なだけ。これ以上好きにならなかつたら、メルアドあげる。友達になつてあげるよ」

私は、微笑み、静かな教室を後にした。すると、後ろから、さっき『なぜ、凜華は、誰も好きにならないんだ？』と聞いてきた男子に、待って！と声を掛けられた。

「何？どうしたの？」

私は、優しく問いかける。男子は、頭をかきながら、

「友達になろう。」

私は、そつと微笑み、男子の手を掴み、

「うん。じゃあ、赤外通信ね？」

「う、うん」

男子は、テレながら、携帯のボタンを操作する。

「じゃあ、やるねー」

「うん」

ピピッと携帯から、音が鳴り、廊下に響き渡る。そして、男子は、後でメールする、と言い残し、走って去っていった。私は、小さく手を振った。

「なあ、凜華。」

教室から、3人の男子が出てきた。

「俺も、友達になる。」

「俺も！」

「僕・・・も」

私は、また、優しく微笑み、いいよ、と携帯を出した。そして、また、赤外通信のピピツという音が鳴り、交換終了。

「じゃあ、あたし、そろそろ電車が来るから、帰るね。ばいばい」

私は、手を振りながら駆け足で、階段を降りた。

後、1人の男子は、メルアドをもらわないまま、小さく、泣いていた。

「林原 凜華・・・」

誰もいない教室で、そつと呟いた。

プロローグ（後書き）

長続きしたら良いなあと思います）、、（
続きもどつどつ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5046j/>

選択～凜華の心～

2010年10月14日20時31分発行